

平成24年度 みんなで学ぶ景観まちづくり教室

講演演題：景観町づくり活動 in あつたらもんの里



講師：瀬戸 達 (せと さとる) 氏
(NPO 法人 歴町センター大聖寺)

日時：平成25年2月6日(木) 18時30分から20時30分まで

場所：鹿児島市役所東別館11階 1101会議室

【以下講演要旨】

こんばんは。私、最近、色んなところから講演を頼まれます。鹿児島と言ったら、BS 歴史館で、現代で最も必要な偉人、西郷隆盛がいたところで、別に私の話を聞かなくてもね…。逆に私の方が質問したいぐらい。3, 4時間、皆さんのまちを見せてもらったんですけども、我々の大聖寺と似たような傾向がありますね。私が講演頼まれると、後の1時間位は全員に感想と質問を述べて貰います。これはもう、国から頼まれようが、県から頼まれようが一緒です。何故かという、私は質疑応答がメインで、全国まちなみ保存連盟で色んな問題点を一緒に悩んでいますので、前向きに取り組んでおくことや聞きたいことを、この列のこの順番で行きますので、もしも早めに聞きたい人は、すーっと前の方に来てください。

質問時間を待たずに聞きたいことがあったら、横槍にどんと、手をあげなくていいですから、私、答えます。それ位少々困らせてもらった方が楽しいです。

I. 大聖寺地区歴史的町並み整備計画

大聖寺は、北陸の石川県の福井よりで、蓮如上人の吉崎御坊の隣。若い人には、前、ヤンキースにおった松井選手の(生まれた所の)隣。加賀市は人口7万人を切りました。加賀温泉郷の旅館がどんどん潰れ、仲居さんが居らん様になった。そして10万石の城下町、大聖寺に歴史的な町並みがあります。

大聖寺の城下町は3つの大切な場所があります。城山と藩邸跡のところ。次に、隣の松平家や一向一揆の百姓が攻めてくるといかんでお城の代わりに7つのお寺と1つの神社で、城塞とした街並みです。ここの景観整備に私たちが入ったことによって、住民が燃え上がって町を直したというキッカケになった。最後に、武士と町人の町。大聖寺は沼地だったので、地盤のいいところにまず侍が住んで、残りに町人が住んだ。家老の後ろに駄菓子屋がある武士と商業のまちです。

「山の下寺院群の景観整備」ということで、7つのお寺と1つの神社で、役所からこんなしませんかと。で、住民の方が、熊坂川までしよう、国道305号までしよう。最後には裏山の緑の稜線も大事だからここまでやりましょうと、住民の方から広げていった。町を歩いていて、大聖寺は旧国道を歩いていても、何となくこちらの方が歴史的な町並みになるんやないかなという気配がする。例えば、ここが100点やとしたら、ここが65点位の匂いがする方が歴史的街並みとしてはいいんでないかと、住民側がゆうて皆でやったということです。



加賀の国を守る加賀神明宮（注1）、これが藩主の菩提寺である実性院（注2）。これが4月から改修します足軽屋敷跡、下がモデルになった民家。こういったことを皆で勉強して決めた。大聖寺の足軽屋敷は、子供の作文でお化け屋敷みたいと書くくらい、筍が畳の下からぼこぼここと生えて、天井まで突き抜けてますんで、今度これを改修しようとしています。

蘇梁館（注3）という北前船の船主の館を移築してます。この前、マレーシアの世界遺産を守っている教授連中が訪れて、(カニの水揚げで有名な加賀の漁港の) 橋立という港にあった館を、市が買って、港でなく、一端城下町に建てました。これを見て「これは世界遺産にも勉強になるわー」と、「何が勉強になるんですかね」。

「本来以外のところで大切にすることは大事だ。例えば、観光客の来る100点のアンコールワットは大事にするが、87点のものは全部ほったらかしだ。歴史的な町並も一緒に、これは大事にせないかんものも、その次のランクのものも、元の位置にどうしてもやれんようなものもキチンと大事にする心があることは非常に大切やから、今から世界遺産を守るような国の人らも大事にせないかん。」と。もしも皆さんの中で、西郷隆盛さんや大久保利通さんの大切なものなんやけども、大元のところへ帰れん様なものでも、それをバカにしないで、またなんかの折に元に戻る可能性がありますから、仮に建てるのでも大切なことや！というのを覚えといた方がいいということです。

次に、我々は自分のまちを自分たちで調べました。赤～い色むらのある瓦が、我々の処の特色なんです。越前、福井の方から入って来て、峠を越えて、我々の国に入った途端に、うあーっと赤瓦の町が始まります。文化庁の人が視察に来られて、お～！と言うたんですね。私ら、見慣れとるし、色むらあるし、あの人らに言わせると「天国みたい。こういう風な色むらの赤色はない。」ということで、ほんとにそれだけの価値があるんかい？ということで、住宅地図を縮小して、6つの町を貼りあわせて、このグループ屋根を、このグループは外壁を、このグループは門や塀を、このグループは擁壁やアプローチをというようなみんなて調べた。ホントに大切なものが残ってるかを見たんですね。

そして、広さがこの会場位の集会場に集まって、皆が調べたものを白地図に、太郎さんの蔵の屋根が赤いなら赤く塗って、壁に貼って、まちの特色を共有したんですね。ほんでこれからこのまちを立派に、大切なものを残すには、どういう風にしたらええんやろか、景観条例という言葉はカドが立つんで、みんなて約束をしよう、ゆうことで、『約束ごと』（案）を決めた。家を建てる時は、あんな感じにしようとか、

山の下寺院群の町並み



神明宮



実性院



モデルとなった民家



旧足軽屋敷

山の下寺院群整備区域図

●区域決定→地元発意により区域を拡大



山の下通り沿道
↓
熊坂川へ拡大
↓
国道305号
背後の丘陵地へ拡大

移築整備した古民家（蘇梁館）



屋根の色・形態分布状況図

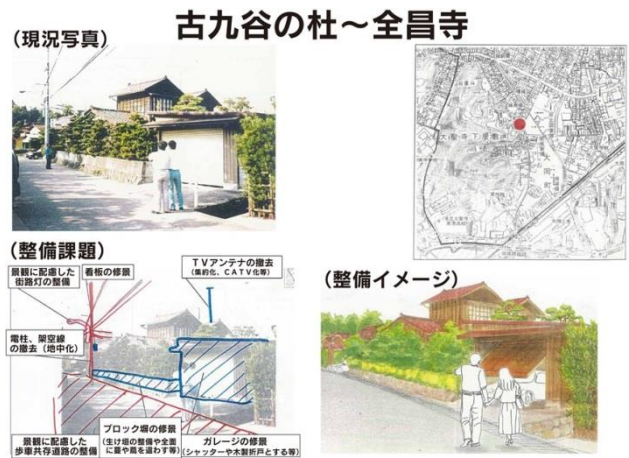


壁は防火サイディングで真っ赤っかのを張ったりせんと、出来るだけシックイにしようとか。で、この最中に、加賀市の都市整備課長が、お酒を持ってきて「皆さん、これやってくれ。その代わり、自分たちの町を、自分たちで何とかしようとするんならば、飲んでくれ。何でもかんでも役所や政治家がせいというなら飲むな！」と。役所にこういうことを言う人がこの時はいたんですね。「判ったけん、置いてけ」とゆうてすぐ飲んだんですね。

調べてみると、けっこう赤が多いでしょ！これだけある！父ちゃんやら母ちゃんやらみんなやったんですね。で、こういう町のところで、この電柱が邪魔やなと思う所を書き上げ、じゃあ、役所がするところは赤色で、民間は青色で、これが直るとこういうイメージになるね。もう一つ、この写真でこの電柱がないといいねとかね、舗装もいいのにした方がいいとか、シャッター、白っぽいのがち

よっといかんとか、ブロック塀ももう一つやねというのを書いて、大体こんな感じ（のイメージ図）。町内の人が夢を見るよね、こんななるぞ！と。国から予算が落ちてくるよと。そして皆で頑張れば、町がこんななってくると、自分たちも住みよいかれども、子供や孫に、この町を残せる、ということですね。これやとちょっといいでしょう？それで、全昌寺（注4）の屋根を赤にした。感じいいでしょう？統一感があってね。山門を赤色で建ててもろて、本堂の方も今度何かするときは赤色にしましょう。ここも、このブロックよりも生垣がええな～ゆうことで、江戸時代からこら辺の生垣はあったんで、生垣にしてもろた。ここも電柱として、歩道を玉砂利の洗い出しにしたら、こらへんで暮らしてるおばあちゃんが「ほんとに空はこんなに広がったんけ」となった。

で、何でこんなうまくいったか。まず最初に、論議をすると、全体としては賛成するけれども、ここをこーせーとかあーせーとかなってくると、吾が損するとか得するとかなくなってくる。というところが一番の苦心するところで、二番目は、わっしょいわっしょい、て仲間が集まる場所で、政治家を入れなかったんですね。政治家を入れると、なんかかや言いたがって、何もせんでも4年に一回、はちまき締めないかんとなるでしょ。で、誰かに協力してもらおうと、もう一人の方はひがむんですね。そうすると会長、会計、顧問、4年毎に順送りになる。そうせんと丸くいかんという。会長を誰にするか、県会議員が会長で、市議員の2人が副会長で、政治家が一番上にあるのを、私は「全部、役員は民間でやりたい」と言った。政治家の人は斜め上の相談役でおってほしいと。「そんなもの許せん。でかい金が空から来るんやから、政治家が上におらな何もできん。今からやることは神様でも出けん位のことをやろうとするんやから、民間で出来るはずがない！」こう言いだしたんですね。で、その言葉聞いた時に、（あ、あ、これ勝ったな！）と思いましたね。皆さんに「この中で、神様も出来ん様なことを出来ると思う者はおるか？」。というシーンとしてね、政治家にも「あんた、神様でも出来ん様なことをほんとに出来るんか？」と。その時、大聖寺の非常に有名な方が、（今は）亡くなられ、今日は時間がないので、当の政治家も「民間でやれ！」と言って帰ったので、初めて、政治家を入れなくなった。で、道は行政でつくるが、町並み自体は地元の住民でやろうと。み



(6) 大聖寺地区歴まち計画のエピソード

- ①まちづくり協議会の運営に苦心
→総論賛成各論反対、個人の利益優先
- ②議員等の権力者との闘い
→政治家は入れない、執行部は全て地区の住民代表
→デザインは誰が決めるのか
- ③道は行政がつくるが、町並みは地元の住民がつくるもの
- ④コンサルタントは遅れて来い！
→最初からいると皆が頼ってしまう

なで白地図に色描いたんですけども、私はコンサルトには「8時半に間に合うように来るな。10時半位に頭かきかき、饅頭か何か持って謝りながら来い。」と言ったんです。「お前が最初からおると、どうせ何百万かもろて、色んなもんを印刷に回して、成果品にして報告するのが仕事やから、頭からおると、住民がお前を頼る、だから最初に誰もおらんとなれば、住民は我がでせざるをえんから、遅れて来い！」と言うたんですね。で、ほんとに遅れてきましたよ。饅頭持ってこなかったけど。それで、みんなでやったんで、うまくいっただのかなと思う。皆さんも、もしも景観整備をやる時は、あの政治家がしてくれるといいな！とか、こんな調べることはコンサルトがせいがいや！とか、役所がそこそこまでしてくれたら、それに乗っかって、あとの1割か2割をやって終わったほうが手（苦労）が少ない！とかあるかもしれんけども、役所の人を決めることとゆうのは、鹿児島に合おうと合うまいと、全国の色んな例を足して、割った最大公約数がどうしても出てきます。看板の色とか大きさとか、掲示方法とかゆうものに対して、あの町に合うようなのは何か、は皆さんが一番、知ってます。

私たちのことが、6年ほど前の12月26日、NHKのクローズアップ現代にのった理由は、ディレクターから電話かかってきて、「景観専門の方々に聞くと、全国で7箇所ほど成功例があり、大聖寺には取材に行きませんが、成功した一つですね？概略だけ教えて下さい。」と聞いたもんですから、「我々は家を建てる時に、申請書も設計の審査もみんな民間主導で、役所が協力して、民間が出した同意書で、初めて確認申請を受け付けます。そして、補助金の竣工検査も民間が主導で、役所は横でサポートしてます。」と言ったら、「役所が用意した、補助金の検査に民間主導でやるとんという事は例がないから、取材に行きます！」ということで取材に来て、放映された。その時、景観整備課の担当者は「私は、40キロほど向こうの町から加賀市役所に就職して、景観の部署にいますが、まちの景観は、まちで生まれ、まちに暮らした方が一番知ってます。この前まで、水道課や用地課におったような私らよりも、地元の人の方がよっぽど知ってます。だから、我々は地元の人を信じて、地元の人と一緒に、連携して決めた約束ごとで運用してます。」というようなことを、(私たちに)花を持たせてね、話されました。だから皆さんのまちも何やかんやゆうても住んどる人が一番。やっぱ、住んどる人がまちのことを一番よく分かるとんと思います。

II. 町家再生によるまちづくり

次、大聖寺には、50年以上経って、材料・工法が昔のやり方の登録有形文化財に適う建物が350件、約1割は空き家です。約40件くらい。都会や地元の方に、まちの活性化のために使ってもらうんでしたら、家賃を安く、補助をして、町屋再生ということで、前の市長が、「建築課」を「町屋再生室」という名前に代えた。これもすごいことやね、市役所に建築課がない。それで、こういう色んなのをやり始めた。今日現在で16件、その中には歯医者さん。私、奥歯はほとんどない。ここの歯医者さんがみんな抜いて

もうて。ここのところが、銀細工の教室とカフェテラスに。家賃が普通、7万か8万かするところを1万6千か2万円で借りれて、工事費用をマックス550万出します。これは、呉服屋さんが、長唄やお花の教室でリニューアルしたんです。ここが、北海道の帯広で成功された方が寄付された、町家の蔵！を陶芸教室にして、若〜い恋愛中の東京のカップルがここで陶磁器を作ってます。今では日本の若手の何人かに入って、ホームページから色んなサークルに広がっていったりしてね。これは、織物会社の問屋さんの家が今、小規模の多機能ホーム、お年寄りが段々足腰が弱っ

●町屋再生の事例



たり、精神的に病んでいった時に皆が集まって助け合えるような、こういうのが35件か40件のうち、16件、約4割程、空き家がこうなっている。今度、京都府がこれを見に来るんですね。

昭和62年、石川県庁から、長野の小布施へ視察に行くのに民間も連れて行くというので、視察して、自分の故郷とだぶりながら見て、故郷にも磨けば光るものもいっぱいあるな、と。磨かんから鈍い顔をしてるんやな〜と。小布施で、栗の木で舗装したり、裏路地の土塀を整備したり、栗菓子とか、枳一の酒屋さんとか、北斎記念館とか色々ありましたけども、規模、内容、将来的な可能性、大聖寺には結構あるなど判って来て、故郷に帰ってきて、まちおこしを始めたんですね。

私は、大聖寺の城下町から5キロほど海寄りの山の中で、果樹園とお百姓をやっとる家の末っ子の3男坊で生まれたんですけども、母親が目を稲の穂で突いて、私を背負って大聖寺の眼医者へ通ってね。私の故郷は、農業ですからいつ見ても一緒に景色なんですけど、大聖寺へ行くと、人が一杯歩いとるし、ボンネットバスはあるし、飴玉は7色あるし、端切れは7色あるし、「今日はお祭りやし、こんな人が多いんかな?」と聞いたら、毎日だという。そこで、汽車に憧れ、大人になったら、大聖寺へ行って、汽車の見えるところで、丸窓のある家で所帯を持とうと、3つか4つかからそう思い続けておった。私は子供の頃から、大聖寺の川のきれいな水や街並みやら、賑わいに憧れて育ったもんですから、思い入れが非常に強い。で、あとから「何でそんなに熱いんですか?」と聞かれて、これが理由ですね、はい。

Ⅲ. 市民主体のまちづくり活動

初っ端からまちおこしと言っても難しいだろうから、最初は道おこしからいこうと思った。一里塚を再生しよう、ということで、まず「楽しく歩こう歴史街道」と。参勤交代の道を、一向一揆の格好で、むしろ旗に「楽しく歩こう歴史街道」と書いて、十万石祭りの日に、みんなで歩いてみたんです。ほんで、一里塚を再生しようということで、5カ所の一里塚を再生しました。我々はみんなで金を出し合おうというやり方で、榎の木を割って、庭師さんが石を用意して、彫って、「一里塚」で書いた九谷焼をここへ入れて、左官屋が豆砂利の洗い出しをして、看板屋が…だから50万から100万かかるんですが、全部、寄付でやっております。

ガラッと戸を開けて「こんにちは。大聖寺の瀬戸ですけども、自分たちの子供や孫のために一里塚を再生しようと思うんで…」。例えば1枚15万〜20万するような九谷焼の有名な作家もただで書いてくれます。この石も15万位する石なんやけども、庭師さんにただで頂いて、全部ただで終わらせている。1年に1つずつ。3年目位になってくると、戸を開けて私が入ってくるだけで、「わ!ただが入ってきた。」と言われましたけど。それでもめげないで頼んだら、ね。5カ所全部、大聖寺藩領内の一里塚が出来た。次が、今の東京大学の医学部のところが大聖寺藩上屋敷なので、そこに「大聖寺藩上屋敷跡一里塚」をやろう、と。「そんなもん、出来るはずない、大学の許可が取れるはずがない。あの雪博士の中谷宇吉郎博士(注5)が、北海道大学で雪の研究をして、自分の教え子が教授になって、その教え子が北海道大学で中谷宇吉郎の碑を建てたいと頼んだけどでけんの、大聖寺の瀬戸やけども、とゆうて大学がこんなもの建てさせてくれるはずがない!」と全員が反対したんですね。で、反対したら、私はやりたがるんです。全員が絶対無理やというんなら、出来るとすごいことやな〜と。ところが面白いことに、うちの市長が東大出で、うちの

1) 大聖寺まちなみ景観整備委員会の発足(平成6年)



楽しく歩こう歴史街道



北国街道への石畳の設置

●一里塚の設置



絵皿リレールート図



大聖寺藩上屋敷跡一里塚(東京大学構内)

会の理事長の娘が医学部にインターンしておいて、一番大きな理由は、東大医学部の医学部長が福井の(福井県北部、現坂井市の)丸岡ゆう、「一筆啓上 火の用心 おせん泣かすな 馬肥やせ」(注6)のあの丸岡城(近くの)出身で、私と一緒に、子供の頃から、丸岡城しかなくて、大聖寺に憧れて育ったんやね。その大聖寺からこういう話が来たんで、医学部長が先頭になって。明治時代に東京大学が世話になったドイツの、ベルツとか何とかゆう石像二つの次に、大聖寺の一里塚を建てた訳ですね。これも全部、無料で出来ました。基礎屋の社長を呼んで、「来年1月に、お前んとこの社員旅行先を東京にせい。1月10何日の金曜日に行き、何しろ次の火曜日が除幕式やから、トレーラーで行って、セメントと砂とバケツと持って行って、その代わり、東大の赤門通らせてやる。で、金曜日に基礎工事して、ほんであくる日、はとバスで浅草行って、二重橋へ行け。」と頼んだ。ほしたら「わかった！」と。森鷗外が「雁」を書いた民家がロビーにある不忍池にある、あのでかいホテル(水月ホテル鷗外荘)に泊まって基礎工事をする。で、1人折れたらもうしめたもんですね。左官屋も「わー、基礎屋返事しとんのなら、わし等の砂利も乗せてくれ」。石屋も「この石も乗せてってくれ」。みんなもわかった、わかったと。ほんで、こっち側のテントは医学部関係、こっちは石川県人会、こっちは我々執行部という式典をやることになり、同じやるんならば、東海道の方へ行く参勤交代のコースと糸魚川を通過して中山道から東京へ行くコースで、桐箱に九谷焼の絵皿を入れて、記名状を和紙で書いて、177の市長に「昔の街道を大切に、一里塚を再生しましょう」と。「これに賛同する市町村長は、記名して、捺印して、火曜日の日に、隣の市町村長へ渡してください。」と書いて、せいで、大聖寺の十万石祭りの舞台の上から、福井の芦原市長と小松(市)の助役が、ばーと回していった。ほんで1年と何カ月かで、東京へ着いた。九谷絵皿が(リレーする)参勤交代、というのをやった。実は、名古屋の方は早く着いた。こっち(中山道)の方はゆうた通りに、落成式の日、最後の燕市に。東海道の最後は川崎市。こっちの方は名古屋やら静岡やら大きな町があるんで、私は、静岡県で止まったら私が行くようになってた。これも、両方ともノンストップでね。ほしたら、これもね、皆が行くはずないとゆうたんやけど。私は、仲間に、教育長のOBがおってね。「いや、きっと行くわ！」と。「これやったら、ええことやからきっと役所が協力してくれる。」と。

次に、二番目に大事なことは、女の人と子供と一緒にやると非常にスムーズに、ですからシンポジウムも子供のシンポジウムです。東京大学の西村幸夫と言う、世界遺産の、数年前までは世界のNo.2、今は日本イコモスの支部長、その人がコーディネートしてくれました。私をまちの人が非常にバッシングしてまして、「瀬戸バッシング」といってね。毎月1日は交通安全の日、議員の人が腕章を巻いて、ピーピーってやるんやけども、私がくると目を逸らしてね。私をよそ者扱いです。しかし、子供と大人と一緒に活動しておったお蔭で、だんだんバッシングが解けてきました。不思議なもので、茶の間で、子供や女の人の発言権は非常に強いもので、おかあちゃんと子供を味方にする方が、まちおこしというのは非常にうまくいくと。私の例からいくとそうですね。

次は、ほんとは10年ほど経ってからしようと思うたんやけども、兵庫県の出石(いずし)には殿さまの登城を告げる辰鼓楼(注7)がありますが、我々のところは時鐘堂(注8)があります。「出石はいいな！」といったら、郷土史家の方が「いや、故郷にはこんな立派なものがあるのやから、うらやましがらんでええ。」と、「じゃあこれを建てよう！」といことで、見積もりが2900万。で、誰も金出さんのなら、1人1千万ずつ、腹切る覚悟でやろう！とやったんですね。

●まちなみ景観シンポジウム(平成9年～)



子供連によるタウンウォッチング



子供連による発表

●景観整備の拠点「時習庵」整備(平成10年)



時習庵

●邦楽教室「時習庵社中」設立(平成11年)

- 史跡あんないびと
- ・「史跡案内所」設置(平成11年)
- ・「加賀江沼ふるさと史跡あんないびと養成講座」開講(平成12年)
- ・「大聖寺聖徳太子検討委員会」設置、18路線に歴史的名稱命名、看板107箇所設置(平成12年)



歴史的名稱看板



子供連の笛体験

集まった金が、2100 万円。で、建てました。高札場と時鐘堂、両方建てて、足りない 800 万は、7 年返済で月 10 万。40 万の利息、あと 1 年半、来年 6 月で返済が終わります。屋形船で返済しました。ちょっと困ったほうが色々、次のことやったり、信用が出てきます。で、これはみんなで金出しましたから、ほとんどの人は 1 万円ですけども、うちの事務員は 100 万。私を取り締まる市の建築課長が 350 万。県の出先の課長が 12 万。高札場の裏に書いてあります。大聖寺の方は半端でないから。もう汗出す、涙出す、血一出す、金出す。みんなやる。

で、全国大会をやる。古い町並みの全国大会 (注 9) を大聖寺でやって、永六輔さんの講演をやって、町並みが食文化とどう関わりがあるか、音も匂いも、全て五感で町並みを感じる。観光に活かすにはどうしたらいいか、文化財を活かすにはどうしたらいいか、柴山潟という大きな潟 (注 10) があるんですが、水辺を活かすには、山村風景を活かすには、城下町を活かすには、白山の眺望権を活かすには、という 8 つのテーマです。全国大会をやっただけでは、あー、いい大会やったな！で終わってしまうので、その時いらした西村幸夫先生の「町並みまちづくり (物語)」という本に、40 の町のトップリーダーの活躍の話があったんで、西村先生と話を

して、10 年間、(毎年) 4 人の人と西村先生が話す「町並み塾」をやってほしいと頼みました。実は今年が 10 年目です。それで今年の 9 月 7 日に「ありがとう西村幸夫先生」というシンポジウムをやらせて頂きました。で、この人 (上勢頭芳徳氏) が (沖縄県) 竹富島、この人 (吉川真嗣氏) が (新潟県) 村上市、この人が (島根県大田市) 石見銀山の松場 (登美) さん、この人が (長野県南木曾町) 妻籠の小林 (俊彦) さん、この人が愛知県 (豊田市) 足助の小澤 (庄一) さん、この人が (滋賀県) 長浜の黒壁の笹原 (司郎) さん、この人が (滋賀県) 近江八幡の八幡堀 (注 11) を掘って再現した川端 (五兵衛) さん、この人が (大分県) 由布院の溝口 (薫平) さん、こういう人が順番に出てます。あと、今年 4 回で 40 回。あと 4 回で全部終わります。

大聖寺駅前の歴町センタービル (注 12) は、ホテルルネッサンス (加賀) を買収して、修理・修復して、3, 4, 5 (階) はアパートにして、2 回を展示場等にして、1 階をまちおこしに使って、結婚式場を階段 (式) のホール (あったらもんホール) にして、子供たちの学芸会や講演会やクラシックコンサートが出来るようにしてあります。

で、(NPO 法人歴町センター大聖寺に) 中級武家屋敷建物の寄付を受けました。(仮に) 市役所に寄付すると、取り壊して駐車場にしたり、用

2) NPO 法人歴町センター大聖寺設立 (平成 13 年 11 月 27 日)

- 【趣旨】
- ・旧大聖寺藩の歴史的景観を守り、整備することによって、地域の人々に潤いを与える。
 - ・子供たちが地域に誇りを持って暮らせるよう伝統ある遺産を継承する。
 - ・こうした活動を通して地域が活性化することを期待し、NPO 法人を設立した。

3) 時鐘堂の再建 (平成 14 年)



5) 「西村幸夫町並み塾」の開催 (平成 16 年～)

- 年 4 回開催
東京大学西村幸夫教授をホストに町並み保全運動を実践しているの方々をお招きして開催
- 記録にまとめ、広く共有することを目的
(学芸出版社「季刊まちづくり」に概要を連載中)
- 北陸の各都市の NPO 等との連携



この時いらした西村幸夫先生の「町並みまちづくり (物語)」という本に、40 の町のトップリーダーの活躍の話があったんで、西村先生と話を

6) 歴町センタービルの開設 (平成 16 年)



7) 五徳庵の整備 (平成 17 年)

歴町センターが市民から武家屋敷の寄贈を受け、国の登録文化財にも指定され、改修整備



地買収時の代替地に使われ、せつかくの建物がなくなるので、あなたの方がいいわーと。幕末の門、明治の母屋、大正の離れ、昭和の蔵、これ（「五徳庵」。注13）を修理・修復して、登録有形文化財にして、まちおこしに使っています。

先ほど言いました、旧大聖寺川は、ほんとに江戸時代の蛇行のままであり、これを活かすには屋形船（注14）がいいんでないか、と考えました。舟がUターンして帰ってくるとこで、私が棹を持つとった場合に、船上山中節（注15）という歌をお客さんに聞かせます。皆さんにさわりを聞かせます。拍手で。

《お〜い！船が出るぞ〜！はあ〜あ〜あ、忘れしやんすな 山中湯治 瀬越・大聖寺・屋形船 チョイ チョイチョーイ ♪》（注16）

で、去年のNHKの、石川県の「一年通して色んな花が咲いてますね」という特別番組のBGMに私のこの唄がずーと流れていました。乗船時間を35分位にしてあげると、深田久弥、山の文化館やら色んなところへ行ける。儲ける気がないので、時鐘堂の返済と、歴史的な景観の風情に合うな、というのでやっております。

次に時代結婚式。江戸時代の嫁入り道中を再現しようと、大八車、車長持、駕籠、人力車、そして屋形船。結婚式を神社でやって、披露宴、これ道具からスタッフから全部含めて10万です。（人は）結婚式のスナップ写真まとめるだけでも10万するのに、50万ほどいるやろ！と。で、最初、花嫁さんと親が出て、私が長持唄を歌いながら出発する時に…《拍手》じゃ、ちょっと

時代結婚式



桜と花嫁

《ハアー 今日ハナー 日もよし ハアー 天気もよし 結びナー合わせてヨー
ハアー 縁となるナーエー ♪》

ありがとうございました。《拍手》 1台だけ生で、2台からはCDで。約600人位、土手のところで「よし子ちゃん。おめでとうー！」って。そしたらね、何しろこれはすごいだけね。あの人から知り合いから、橋の上でズラーっと並んで、手一振るわ、土手にズラーっとおるわ、新聞記者は来るわ、そしたら「うわー」っと、嫁さんの親がね、感激で泣いてまうんだわ。「ウチの方だけ、こんなすごいことになってええんか！」時期は、4月から10月ぐらいまで、あとは吹雪いてくると縁起悪いからね。これは全部、本物でやっています。今まで6回。ユーチューブで「時代結婚式」で、出てきて一番上の、1頁目にウチの息子のが出てきます。見てください。約1時間30分くらい、長いですけど、宮崎あおいみたいなキレイな子やったね。

そして、その船着き場のところに、昔、走っていたチンチン電車を待合室にして、前で「ええもん市」（注17）で野菜を売ったり。

次のは私の失敗の話なんです。大聖寺の色んな史跡を全部で3,100円分を2,000円でええという「ゆったり周遊券」をやったんやけど、大聖寺は観光地化されてないんで、全然売れなかったんで、やめました。次、自転車で、どれだけ乗っても500円。後でタダにしたんやけど、これも駄目でした。駅、図書館、4カ所で作ったんやけども、これも駄目でした。大聖寺は真ん中からどっち歩いて15分くらいで着く

10) 大聖寺ゆったり周遊券



11) 大聖寺レンタサイクル



12) もてなしトイレ案内処 (25箇所)



からです。3番目の失敗作「もてなしトイレ案内処」。団体で、お年寄りほら、トイレしたなる。で、駅の公衆便所で、「トイレしたい人ー」って「はい！」と。「出しといた方がいい人はして！」と、ほいで「出発しまーす！」とするんやけど、7分ほどすると「トイレしたい」…「さっき、せい言うたがよ！」。こらいかな、どこ歩いとっても5分以内にトイレがあるようにしようと思って、この「もてなしトイレ案内処」という看板を30枚も作って、それを市の部長と課長に、市役所、図書館、美術館にこれを架けさせてくれと。あと民間も併せて20カ所から30カ所しようと思って。頼む、「わかった」と。看板をつけとる所に新聞社呼んで、「もてなしトイレ案内処、決まる！」、あくる日記事が出たら、それを持って、20何か所、本屋やら、病院やら、色んな所に頼んで歩いた。写真でニュース出たでね、「すごいね。市役所も図書館も美術館もみな載つとる。ほんなら分かった。うちもする。」全部うまくいったんやけども、利用せんね。あれ不思議なもんやね。やっぱり、公衆便所ならするけど、呉服屋さんの横のトイレ、嫌がって。だから、これ、三つともダメ。

次、景観広場（注18）、子供たちにここがどんなんなったらいいかーというのを画用紙に描いてもろうたら、小高い山を描いたり、小屋を描いたり、川が描いてありました。そこでこの広場に実のなる屋敷林、グミとか柘榴とか枇杷とか梅とか柿とかを植えて、それを子供たちに世話させて、結婚したり就職して都会に行っても、お盆に帰って来た時に自分の世話した柘榴どうなったかなー、と気持ちが残つとると、自分の故郷に誇りの持てるんでないか、ということで、景観広場を作った。

で、ここに全国大会（H16）をやった記念碑を建て、それに西村幸夫先生の「町並みはみんなのもの まちの未来に託すもの」というのが載る訳です。で、ここに「方丈」という、鴨長明が日野の里で「方丈記」を書いた時の方丈（注19）が下鴨神社の前の河合神社のところに再生されとるのを、寸法とって、写真に撮って、内容を見て、それを、屋根以外を全部その通りに建てました。そこで子供たちに柿干しの吊り方や銀杏や椎の実の炒り方などをやったり、その横で、梅のへたをとって、水洗いをして、塩漬けをして、あとで紫蘇を入れて、梅干し作って、瓶に入れて、自分のお父さん、お母さんに持って行く、というようなことをやってます。生活の一部になって初めて教育になるんで、行事やから、学校でやとったから、いうやつは、大体、入ってきたのは出ていきます。景観もそうなんです。景観も生活の一部でないと、なかなか壊れていくのを防ぐことはできません。

今、色んな形に残る文化財、心に残る文化財を募集して、残しています。北信越大会や全国大会をやったんやけど、北陸3県の町並みゼミもやりました。次に、ここにちょうど11坪の空地があり、この横が大聖寺の関所があったんで「看板を建てさせて！」って頼みに行ったら、昔、教育会館を建てる時に、私が設計で、その地主が教育会館の執行部の責任者で「11坪位の固定資産税に1年に7千いくら引かれるんやけど、お前んここに全部やる、子供たちのために使うてやって！」「ほんなら、わし、関所を再生するわ！」と言うて、ヒノキ節つきの柵に、樺

13) 町並み景観広場の開設（平成20年）



山の下寺院群地区にNPOが景観広場を整備

14) 錦小ふるさと塾（ふるさと風景まもり隊）



大聖寺藩関所



の古木の門柱に、杉赤の門扉を付けた、現存しとるやつの痕跡調査で寸法取りをしたやつで、後で文化財になるような関所と、ここに金木犀と百日紅と羅漢の木を植えて、関所の由来と、碑を作った。この時は、逆にバッシングをしていた住民 135 名の方が寄付をしてくださいました。だんだん協力してくれるようになってね。

で、今やとるのが、文化合宿。私は、観光産業化して駄目になっている町をいくつも見てきた。今までも観光地やったところが観光しても大したことは起きないんやけども、観光ってしたことないところが、観光して失敗するのが非常に多いんですね。観光って、おっそろしく大きな金を、落ちるといふのを、私、早い時期にね、さっきの銀細工の店で 3 万円のブローチを、ハイって買う人を見たんです！私は 3 千円のブローチでも大分考えて、最後には買わん。で、私は大聖寺を、そういった観光産業化よりも、若者が、集って、学びあい、支えあうような、歴史的な町並みをどうやって守ったんや一ゆうのを勉強に来て、その帰りに、皆さんのここ（パンフ資料）に書いてありますが、九谷焼の体験絵付けとか、楽焼とか、漆器、手織、能・狂言、お茶・お花、柿の葉寿司、時代結婚式、屋形船の体験、で見学コースと一緒に学ぶ文化合宿というのをやります。学生用と一般用、全国町並み保存連盟の会員の方にも送っています。今年は、東海大学と亜細亜大学と埼玉大学と福井県立大学。そして中国の瀋陽、ウィスコンシン大学が来ます。加賀東谷重伝建のところでは炭焼きの体験や囲炉裏をして、林間学校の子供が川でいかだを作って流す。橋立の方では地引網か、そこそこの漁業の端くれみたいなのもさせる。

IV. まとめ

我々は民間でやれることは民間で全部やります。どうしても民間だけで足りん場合は役所のお手伝いをお願いします。民間と役所でも足りなかった場合は、初めて政治家に入ってもらおうという、優先順位を決めたんです。モットーは楽しくやる。今日もそうでしょう？こん中で一番楽しんどるのは私でしょう？ね？それ、大事なんです。世話をされるよりも世話をする方が楽しまなきゃいけないですね。病院で、患者のためを思ったら、患者が一番！でやったら駄目ね。看護婦や先生が一番や！という、患者が一番楽しむ。教育もそうやね。子供が一番大切にせないかんと思ったらダメ。生徒を一番大切にしようと思ったら、先生に、ゆとりを持ってじっくり取り組めるようにしてやる。だから、議会对策で、何しろもう計画書とか報告書とかばっかり書いとる先生もそうやし、役所もそうやね。あれを A 4 一枚の、表裏で、あとはナマの DVD で、ビデオ撮ったのをポンと挟んで、そんで終わり！ちゅうのにしたら、もっともっと、子供のところに先生も行ける。役所の人も民間のところに行ける。時間があれば、心の余裕が出来る。

そして、物事の優先順位は、体、心、交流、お金の、健康だと思ふ。これは子供を産む母親、親心の順番です。分娩室の前で待つとる父親は、いきなり金持ちの子がとか、素直な子が生まれて、なんて言わない。全員、五体満足な、体の健康な子。次に、子供が四つか六つになったら、素直な良い子になってほしいとなるんですね。次に、中学、高校位になったら、いい友達。変な友達は出来んやろうか。これが友情・交流。次に、大学から、嫁さん貰たり、所帯を持つと、ちゃんと口すぎしてるか、お金に困っとらんかな、というて、初めて金が出てくる。一番大事なのは、体、二番心、三番交流、四番お金、だから物事を何かやろうとした時に、この順番に照らし合わせてやればいい。こりゃ儲かるなってやったら大概失敗する。これは地域おこしも一緒です。大聖寺の川も緑も花も木も、三代にわたっ

◆心のタッチパネル



で大切にしてきたものは、今後も三代大切にしようかなと思うものだ、という価値観があるんですね。それに合うかどうかは、その地域の心根が良いかどうかということ。

で、私らの場合は、やるかやらんかは、やってから考えます。私は、よく考えて、これでやっていけるな！といってやるというのは、絶対に信じません。やるかやらんかは、やってから考えます。

校長室の「学・思・行」、学んで、思想が生まれて、行動に移す。という額は間違いです。私は、先に行動ありき！その次に思想、でなく、志。行動があつて、志があつて、初めて学ぶことだと思ふんです。

今後の課題は、もっともっと地域の中に入っていくために、色んな会合を作る。いろんなタイプの行事を、最も素直に対応できるどころとタイアップしたい。だから、お金がいるような時はロータリーの人らと、やる気のある者がいるなら青年会議所と、お金もないけどようしゃべって楽しくやれるとなったら小学生、教職員ともやるし、婦人会や町内会ともやる。ですから、マスコミが「これは誰がやったんですか？」と聞かれて「それは問題にしてません。色んな人と組んでやってる。」ですから、金要る時はどうしても要るんやし、要らん時は要らんのじゃし。汗かく時は汗かく人、発言する時は発言する人、というその特色に最も見合う人と仲良くして、心も通い合わせて、本当に物事をやった人のつながりをネットワークっていう。ネットワークというのは、心が繋がって、物事をやろうとした時に、あの人と言うんやったら間違いなくするんな！という繋がりのことを、ネットワークという。ほしたら、必ず町は栄えると思います。

はい、ご清聴ありがとうございました。約束通り、貴方から、感想なり、質問なり。で、自分なりにやろうとしていることに前向きな話をして下さい。全然関係のないことを言う人がいないようにお願いします。

6. 今後の課題

- ・地域住民の意識の高まりや参加は不十分
- ・これまでの活動は、この指とまれ式



- ・今後、いかに市民の理解を深めるか
- ・NPOがコーディネーターとなって、多様な担い手とともに景観まちづくりを展開できるか

V. 質疑応答

(質問1)

最初に町並み調査に入ったのが平成8年で、活動の区切りというのは判りますか？

⇒【瀬戸氏】“景観まちづくり”という本にキチーっと年表があるのと、グーグルとかで瀬戸達や歴町センター大聖寺と入れると、その中にきっちり書いてあります。国が私のことを調べたやつとかね、単行本やインターネットにも出てます。歴史街道になぞらえて、10何年か20年の活動をアニメーションのマンガのように私たちの歴史を誰でも全部判るように書いてあります。

(質問2-①)

私は桜島の魅力を発信しようとしている。今日は沢山のまちづくりの事業に本当に驚いて圧倒された。二つ質問したい。一つは、これだけ色々な事業をしたり、土地を寄付して貰っても税金がかかったりすると思うが、ファイナンスと言うか、寄付だけでは難しいと思うが、事業資金や収益をどうしているか、或いは行政からもある程度資金がきていますか？

⇒【瀬戸氏】まず、自分たちで行くと大体無料でしてくれます。補助もここに至れば最優先で出ます。むしろ政治家がいなくて、本当に役所と心が通うとこういうことになりますね。

(質問2-②)

地域の中の合意形成、難しいと思うが、どういう工夫をされたんでしょうか？

⇒【瀬戸氏】私のやり方は、上杉謙信軍ですね。こっちのゾーンが同意が難しく、フガフガ言って、何もやらないって聞いたら、このゾーンがしなければならぬことを自分たちの仲間ですごくやっつけていく！どんどん！そうしたらこの人らは、やらんとおれんようになるか、消えるか、どっちかの道をとる。例えば地元の観光協会は、何十年、寄付を受けても何にもせん。で、我々は地域起しとしてどんどんやっつけて、観光のこともやっつけてたら、消えました。叩かれて、こりゃいかん、と思たんでしょう。だから一番いい方法はそれよ。その会の中に入れば、父ちゃんの並ぶ順番から根回しの順番から、エネルギーの90%はそれにとられる。だから伸び伸びとやった方があんたらしくやれるから、この中に入るな！と。で、私は中に入らないんです。

(質問3)

設計事務所の所員は何人で、自分の仕事とNPO法人の仕事とどの位の割合なんですか？

⇒【瀬戸氏】私は、親に20歳までは育てるが、21からは一切我がでやれ！と言われて、恐る恐る大人になったけど、うちの息子には30までは面倒見るけど、31からは一切我がでやれ！というて、今は、貸しビル業は女房と私の2人でやって、私のやることは息子の役所相手の難しいことの相談相手になるぐらい。息子は一人で設計事務所をやっています。この頃はCADで描きますのでビヤーンとすごく早いです。

(質問4)

25ヶ所のトイレは、休日とかGWとかで、足らなくなるということはないのでしょうか？

⇒【瀬戸氏】恐らくそうなるでしょうね、沢山きたら。今はさっき言ったようにお客が来ないもんですから大丈夫なんです。市のところは夜間受付ですから、裏から入りますけども、ゆくゆくは言われたようなことは問題になると思います。ここ2、3年で大聖寺がどう変わるか少し心配です。

(質問5-①)

後継者育成に何か特別なことをしていますか？

⇒【瀬戸氏】何もしていません。私は民謡界で数十年やってきて、人は育つもので育てるものじゃないと思います。ホントに好きなもんじゃないとやっぱり残らんもん。で、やり方は、一番最初に言いましたが、子供も60歳も、その人らが入って一緒にやりたいような素振りをする。新聞にもでるし、テレビにも出るし、こういうところも出る。で、一緒に入れて欲しい、という表情に変わってくる。辛いことを体験しても楽しいことが上回ると、後継者になる。

(質問5-②)

これだけのことをやると自分でやろうと言う子供たちが育ってきてるということだが、やっぱり子供たちを育てないと後がないという意味で、子供たちは育ちつつありますかとお聞きしたい。

⇒【瀬戸氏】それは私の方では判らないね。子供たちが10年経って、数年後から少しずつ兆候が出てくるかもしれんね。

(質問6)

NPO法人かごしま案内人です。鹿児島は空襲があって古いものが殆ど残っていない。観光客が、何だか鹿児島の町って四角張っているよね、と言われたのが印象的だった。古いものを大事にするのは必要で、初めて大聖寺のパンフレットを見せて頂いて、本当に行きたくなりました。

⇒【瀬戸氏】観光ボランティアの人も思い切って変わらんといかん。知識の説明は2割、後の8割は貴女の思い。知識はスマートホンでも出てくるし、すごい量の知識を持てますから、熱い思いで大切にしている文化財の方や色んな人と行動を共にして、色んなエピソードとその時の思いを8割でしゃべるように。私らの仲間は勉強会とか殆どしない。出来るだけ発掘とか楽しんで、文化庁なんか来た時も研修会に顔を出すし、その人らとの雑談の中に入って行く。

(質問7)

冒頭で、鹿児島市と大聖寺が似ている所がある点を具体的に教えてほしいのと、大聖寺は登録有形文化財にかなう物件が350件ほどあって、空き家が10%ほどで、20年30年経つと空き家が更に多くなると思うが、町家を再生した後の有効な利用方法を教えて頂きたい。

⇒【瀬戸氏】後の方は、現在進行形で、壊される体験、活用して成功する体験、というのを市の担当と私らと一般の方とが色々な知恵を出し合いながら、微調整しながらやっているところなんで、私一人がどうのこうのというような問題じゃないんですね。壊れかかった蔵を直してみたり、小屋を直してみたり、古民家を直したり、それを色々な用途にするんやけど、それが成功する場合と、あまりにもミスマッチで駄目になる例とかあるもんで。今んところ 16 件ですから。

あと鹿児島とかと似とるのは、私らのところもね、自主自立の、百姓の持てる国、富樫氏という守護大名をおろいて、百姓が治めた。前田（金沢）藩は、百姓が自分たちで、庄屋にあたる十村が計算して、自分たちで集めて、自主的に税金を納める。これ、改作法（注 20）といいます。非常に有名なんやけど、自主的ですよ。ここもそうですよね。明治維新から、すっごい行動に溢れて、子供たちを大切に、そいうところがよう似てるな、と思ってます。

（質問 8-①）

感想なんです、全員、講演で感想というのは初めてで、大変良かったです。

⇒【瀬戸氏】こういうのがものすごく大事で、役所の人も安心するんです。これだけの人がこんな思いで聞いてくれたんやな。次は、これじゃだめだな、こうしようと参考になるでしょう？

（質問 8-②）

NPO 法人でされてると言う事だったんですが、どういう人がされてるんですか？

⇒【瀬戸氏】75～50 歳位で、病院の先生、現場監督、設計士、百姓、市職員が、無給でやってる。

（質問 9-①）

まちづくりは皆が夢を見れるようでないとなかなか発展しないと聞いたんですが、鹿児島は戦争で 9 割がた焼けて、江戸時代や戦前のものがない訳ですね。鹿児島の繁華街をもっと盛り上げて良くしようじゃないかと、何十年も言ってきたも一つも良くなってない。まちをイメージするものが残ってないからかなと思う反面、これから先は自分の思いを語っていかなければいけないので、もっとこういった考え方があるんじゃないかというものがありましたら教えて頂きたい。

⇒【瀬戸氏】あります。今、加賀市でやっていきたいのを出していったら百位あったんです、百位。で、それを精査して、精査して、精査して、20 位になって、これ作ったんやから、あんたんとこやったら千位あるはず。こんな小っちゃい、1 万人ちょっとで（これだけ）あるんやから。今、加賀大聖寺人物館という、歴史的な人物の会館の素案を私作ってるんやけど、死んでしまった人のネタよりも、現在生きて頑張ってる人のネタをもっと大事にしたい。だから青田、川上の話を小分けにびっしり書くよりも、イチローが来て子供に教えた方が野球のこと判るでしょう？死んだら賞を、というのは、日本の一番ダメなところです。頑張ってる最中に、もっと頑張るためと本人が位置付けるような賞を与えて、ますます頑張ってもら。イチローが「ここで賞をもらったらここで終わりだ」というのと一緒に、歴史ばかりに偏らないで、価値観の一つとして、3 代に亘って大切にしてきた概ね 100 年、これは文化庁が文化財指定に

対して 100 年と言うんやけど、今後も 100 年大事にしていく、あの人の技を大事にしよう、歳時記や行事は大事にするというようなものを探せばいい。そのネタは娘の一言であったり、おじいちゃんの一音であったり、ニュースの一音であったり、役所の人の指導であったりする。そうしてみたら一杯出てくる。それは商業ベースの中でも光るものがある。その光るっちゃうのが観光ですね。観光産業に流れたらだめ。観光です。

(質問9-②)

それは戦争で焼けないで残ってる中で、皆の思いがどんどん膨らんでいくということですか？

⇒【瀬戸氏】 そういう目線でやっていったら、そういう機運が盛り上がって来て、それを一つずつこなして行って、砂利のようなものをこなしていったら、いきなりこんな岩は持てんからね、5年位たまって、それを地域の人が見て、瀬戸らはこれぐらいした！って言って、マスコミが、これぐらいした！と、言うとるだけなんです。この前、東京の国立国際子ども図書館に行ったらね、あなたも町の文化財何とか社員になれる、4年生か3年生用の教本、ほんとにそういう見方が判るね。お父さんとお母さんと一緒に町に出て行って、その町の提灯を見ていったら、祭り用の提灯、葬式の提灯、商売用の提灯やら一杯出てきて、40か50の提灯をその子が描いたんよ。そしたら、文化庁の人が、こりゃ、提灯の一つの、あれやなー、って。そしたらまた、娘がね、エプロンもね、その使い方、そこの家、店によって色んなエプロンがあって、40か50のエプロンを描いた。それでも一つの流れが判る。心に残るか、形に残るかなーという目で見ると、百ぐらい出てくる。 どうも有難うございました。(拍手)

注1：(しんめいぐう) 祭神は天照大神。「山下神社」の名で親しまれる。1868(明治初)年の神仏分離まで当境内には真言宗慈光院に属し、今も境内にある白山神社とともに慈光院別当の支配を受けていた。神明宮拝殿は文政七年(1824年)建立。春の桜まつりや、秋の八朔まつり、ぼたもち祭りで賑わう

注2：(じっしょういん) 通称「萩の寺」と親しまれる加賀曹洞宗の寺院。大聖寺初代藩主前田利治公の戒名『実性院殿機雲宗用大居士』に因み、大聖寺藩歴代藩主(初代～14代)のお墓とお位牌は重要文化財級。

注3：(そりょうかん)。NPO法人加賀国際交流会たぶんかネット加賀が管理。江戸末期から明治期にかけて活躍した北前船で大きな勢力を誇った久保彦兵衛家の主屋が移築復元(梁を蘇らせた)された。

注4：(ぜんしょうじ)。曹洞宗のお寺。大聖寺城主山口玄蕃頭宗永公の菩提寺で、奥女中、武士、町人等の寄進で、慶応3年(1867)に完成。元禄2年(1689)8月、奥の細道で芭蕉と曾良が一泊、二人が宿泊した部屋が復元。境内には句碑がある。

注5：1900年加賀市生。物理学者、随筆家。1936年、世界で最初の人工雪を作ることに成功し、気象条件下での結晶の形成過程を解明。加賀市に「中谷宇吉郎雪の科学館」がある。

注6：：戦国武將本多重次が息子仙千代、後の初代丸岡藩主本多成重に送った手紙。「一筆啓上」の発信地として毎年日本一短い物語(日本一短い手紙)の授賞式などが行われ、これは自治体主催の公募イベントの先駆。

注7：(しんころう)。時刻を知らせる太鼓を叩く櫓は明治4年、途中に大時計が寄贈され時計台に明治14年。日本最古の時計台で有名だがそう古くない。時計台の下には池が有り、清水が湧き出て鯉が放し飼いされる。

注8：大聖寺藩2代藩主前田利明が寛文7年(1667年)に造営。当時、3.6㎡で高さが5.7m。度々の火災で、昭和9年(1934)の大火で焼失したが、古文書や写真を元に復元工事に着手し、石垣の中に郷土学習のために氷室も作り、平成15年、69年ぶりに大聖寺の町に鐘の音が響き渡った。この前には、幕府や藩のお触れ書きが掲示された「高札

場」も復元した。

注 9：「“ゆったりと行こう” あったらもんと共に。急ぎすぎた百年を振り返り、本来の景観を取り戻そう。」をメインタイトルに、2 日間開催、全国から町並み保存やまちづくり活動のリーダーが集結し、8つの分科会で熱い議論を展開。

注 10：加賀市北部。木場潟、今江潟とともに海跡湖で、加賀三湖の一つ。第 2 次世界大戦中から干拓が進められ、日本海への放水路が完成し、1968 年までに 3.40km² が造成された。残る 1.77km² の水面では舟遊びが行われる。湖岸に片山津温泉がある。

注 11：元の姿に戻すことによって公共の利益を促進するという可逆的開発の思想で、425 年ほど前に城郭の内濠として開削され、近世から近代を通じてこの町を発祥とする近江商人の商業活動を支えた水路、都市の空間を昔ながらに維持していくという選択をした。土木学会デザイン賞 2010 特別賞

注 12：瀬戸氏が、廃業した建物再生のモデルケースにもしたいと私費で購入。完成記念フォーラムでの西村教授の講演では情報発信、地域活動の発表の場等として再生する「大聖寺モデル」への期待が示された。同ビルにある NPO 法人歴町センター大聖寺は、地域に根付いた独自の活動を高く評価され、H21 の石川地域づくり大賞受賞。

注 13：主屋（M33 年）：木造平屋建、棧瓦葺、下見板貼り。中級武家屋敷の名残を持つ明治時代の住宅。倉庫（S24 年）：木造 2 階建、棧瓦葺、下見板貼り、内部は縦板張り。通りに面し、景観上重要。一部、主屋と繋いでいる。離れ（T8 年）：木造平屋建、トタン葺（上屋）及び棧瓦葺（下屋）。6 畳間。広い開口部を北側の庭に面してとり、内部は、赤い京壁に自然木を用いた床や棚など、明かり障子、細い棹縁などとあわせ大正期の数奇屋建築。門（江戸末期）：正面 2 間の腕木門で、左側 1 間が下見板貼り、右 1 間が引き込みの板戸。屋根は創建時は板葺と推定。柱や冠木は古く、旧藩時代の中級武士の門形式から、江戸末期のものと推定。

注 14：7 人が 30 万円ずつ出し、100 万の船を 2 艘造る。H20 の第 15 回いしかわ景観大賞・景観賞受賞。

注 15：（せんじょうやまなかぶし）なお、石川県の山中節は、三大民謡の一つ。山中温泉の芸者たちが、お座敷唄として唄っていた。もとはこの地方の盆踊り唄で、米八などの名人が出て、今日の洗練された唄となった。山中温泉は、大聖寺川の左岸にあり、千二百年年ほど前、僧・行基が発見したという。後半の歌詞は若干違う。

注 16：（続き）ニ番： ハァー 山が赤なりや 山中恋し やがて船頭衆が ござるやら ドブーン ドブーン

三番： ハァー 送りましょうか 送られましょうか 泣いて別れた ニ天茶屋 また ござらっせーの一

注 17：朝 9 時～夕方 4 時半（4 月 1 日～11 月末日まで営業）。地域の皆さんに安くておいしい朝取れの新鮮野菜を届ける市場。

注 18：H19 年。山ノ下寺院群の一角に整備（442 m²の三角形）。デザインは子供達のスケッチから膨らませ、寺院群の景観が隠れないよう配慮した。広場には昔懐かしい屋敷林のような果樹を植えた。子供達一人一人が担当の木を決め、責任を持って育てることで、物を大切にすること、故郷を愛する心が育まれることを期待している。

注 19：一丈（約 3m）四方で約 5 畳半程度。間口・奥行とも一丈四方。移動に便利な組み立て式。下鴨神社の神職の子に生まれ、58 歳頃、世の無常と人生のはかなさを随筆として著した。

注 20：慶安 4 年（1651）に開始され、武士と農民の困窮を救済する目的で、給人の知行所直接支配の禁止、検地の精密化、郷村支配の整備などを実施し、藩体制を確立させた。